

旭

印刷を支え加工を活かす

営業本部
北村 裕章



人に歴史あり。今回は運命に導かれるように、旭紙工に入社を決めた北村さんのこれまでを振り返ります。仕事に情熱を注ぎ、プライドを持ち続ける仕事人は、どんなことを考えて働き、将来の展望をどのように思い描いているのでしょうか……？これまでの歩みを教えていただくとともに、頭の中を少し覗かせていただきます！

— どのようなご縁で旭紙工に入社されたのですか？

前職は、平野区長吉長原で北村製本という会社を経営していました。大学を卒業後、印刷機や製本機を扱っている輸入商社であるハイデルベルグ・ジャパンに就職。その3年後、家業である北村製本を継ぎました。当時在籍していた製本工業組合の若手メンバーで構成する「若葉会」が、橋野社長との出会いです。その頃から経営のセンスがずば抜けていて、会合の度に相談にのっていただいていた。

それから30年後、事業から手を引くことを決意した際に、営業職として声をかけていただきましたが、旭紙工の営業力の高さは知っており、私では役に立てないと、お断りすることに。ですがその後、上製本に携わりたいとお伝えしたところ、「設備を持ってきて旭紙工で上製本をやらないか」との嬉しいお誘いをいただき、入社を決意しました。

— 現在はどのようなスタンスで、どういった業務を担当されていますか？

上製本の技術を旭紙工に根づかせていくことが私の使命です。そして、新たに上製本を扱うことになったことを広く認知してもらえよう営業活動も行っています。機械化が進んでいる中、上製本は手作業が多く、高い技術力が必要な分野です。その重要性を伝えることで、旭紙工全体の技術力の底上げに繋がっていききたいと思います。

— 業務上で苦労されていることはありますか？

現在、上製本を専任とする社員は私しかいません。そのため、製本作業をする際には、他部署から人員をかき集めて対応しています。皆さん、本来の業務もあるため、この人員確保に苦労しているところです。本は人類の知識の蓄積。本があったからこそ、人類が進歩してきたと言っても過言ではないでしょう。そういった本をつくることの社会的意義、ものづくりの楽しさを実感してもらいたいと思っています。

— 仕事をする上でのモットーは何ですか？

本は人類の知恵の結晶とも言え、人類の進歩を支えてきました。私たちの仕事はその一翼を担うものがあると、使命感を持って取り組んでいます。私は本に携わる仕事をしていることに誇りを持っています。例

えば、自分が製本した本が書店に並ぶとき、子どもが幼稚園や学校から持ち帰ってくる時など。実際に自分の手でつくり上げた本が、巡り巡って誰かの目に触れる、手に取ってもらえる瞬間ほど嬉しいことはありません。是非、皆さんにもそういった経験をしてもらいたいと思っています。

— 今後の目標をお聞かせください。

上製本を作る技術を旭紙工全体に根づかせ、社員全体の技術力を底上げしていきたいと考えています。また、お客様から技術力を高く評価してもらえような会社を目指していきます。

北村さんはこれまでの経験と情熱を活かし、旭紙工で上製本という高い技術力を要する分野に挑戦し続けます。本づくりへの深い愛情と誇りを持ちながら、社員全体の技術



向上にも尽力。上製本の可能性を広げ、製本業界の発展を目指す北村さんの挑戦は、今後さらに大きな飛躍を遂げることでしよう。

企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：17.6億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2023年12月実績



「社員の団結力はもちろん、多様な人材の存在が会社としての成長に欠かせない」と、工場本部の中西さんは語ります。そして、事前の準備を重視し、柔軟な姿勢でチーム力を高めながら、業務を円滑に遂行させてきた仕事の流儀を伺いました。

旭紙工の ここがすごい！

旭紙工の強み

団結力と多様性が生み出す、 無限の可能性！

まず、当社の社員は、非常に高い団結力を持っています。例えば2024年、休日中に納品ミスが発生した際、前工場長からの連絡を受けて20人の社員が急遽集まりました。このように、ピンチのときには全員が協力し合い、問題を解決に導く姿勢が根付いています。

また、最近は外国人従業員の数が増加しており、特にタイ出身の方が多く働いています。言葉の壁を乗り越えるために、社員間でサポートし合いながら教育を行っているため、彼らも重要な戦力に。日本語を学ぼうと意欲的な外国人社員も多く、互いにコミュニケーションを取り合う良好な雰囲気は育まれています。

今後長期的に成し遂げたいこと

外国籍オペレーターの 育成により、さらなる高みへ！

日本人だけではなく、手先が器用、かつ作業が得意な外国人従業員が増えることで、業務において大きな貢献が期待できます。また、外国人従業員が増えれば、お互いに技術やノウハウを伝え合うこともできるでしょう。これにより、職場全体のスキル向上が図れると信じています。そのためにも、今年は新たに2名の外国人オペレーターを育成し、会社として共に成長できる環境作りを目指します。



中西さんの 考えとは？

工場本部

なかにし まさと
中西 正人さん



私の信念

先読みの力が生む、 確かな成果！

毎日、業務の進捗を把握し、夜勤が来る前に必ず終わらせるべき目標を設定。これにより、日々の業務に対する意識を高く保っています。そして、仕事を円滑に進めるためには、社内での情報共有が不可欠です。周囲の方とコミュニケーションを取りながら、作業の状況や進捗をしっかりと把握。問題が発生した際には迅速に報告できる体制を整えています。また、事前の準備も重要で、必要な資材や手順を予測し、段取りをすることを意識。実行に移すことは簡単ではないと感じつつも、常に努力しています。

仕事をする上で大切にしている考え方

他者の視点を取り入れる 柔軟性に成長のヒントあり！

自分自身の作業が他の人にとってやりやすいかどうかを考え、作業効率を向上させることを意識しています。どのような配置や方法が最適か、常に俯瞰的に物事を見つめる姿勢を忘れないようにしなければなりません。簡単なことではありませんが、これにより、より良い方法を見つけることができると信じています。そして、自分の意見だけでなく、周囲の意見を積極的に聞き入れることも大切に。先輩後輩の垣根を越え、柔軟に意見を求めることで、チーム全体の知恵を活用し、継続的な業務改善を目指しています。

